

第三セクターの事業多角化による経営改善と支援策

研究のねらい

農村振興を行うために、第三セクターを活用した取り組みが増加している。しかし、農村振興への期待が大きい反面、効率的運営を行うための企業性が弱く赤字問題が生じている。赤字解消策として多角化が模索されているので、多角化と経営成果との関係や運営上の支援策を明らかにした。

研究の成果

事業部門数が多いほど売上高は多く、赤字企業割合も減少している。総収入に占める出資市町村による公共補填の割合は、事業数との関係でみるとU字型を示している（図1）。

事業部門数6以上の経営には、設立間もない小規模経営や公共施設管理部門の大きな経営が含まれている。多角化は経営改善に有効だが、売上高向上を伴わない場合や、過大なアウトソーシングの受け皿とする場合には経営改善効果を減退させる。

多角化の効果を得るには、民間企業からの経営資源確保による企業の運営が重要である。製造ノウハウの確保先でみると（図2）事業部門数2～3の加工に重点がある段階ではメーカーとの提携が、販路拡大に重点が移る6～8では流通業者から情報を得ている割合が相対的に高い。

行政への支援要望（図3）は、「財政支援」、「他の三セクの情報やノウハウ紹介」が多く、事業数が増えるに従い「販路紹介」も多くなる。企業性を高める支援策として、ソフト事業への要望が高い。

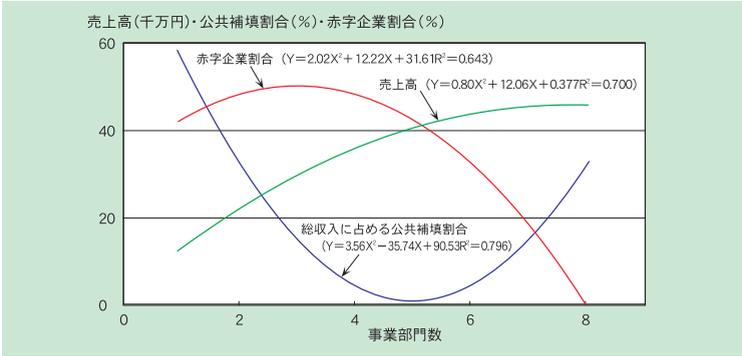


図1 多角化度合からみた三セクの経営指標

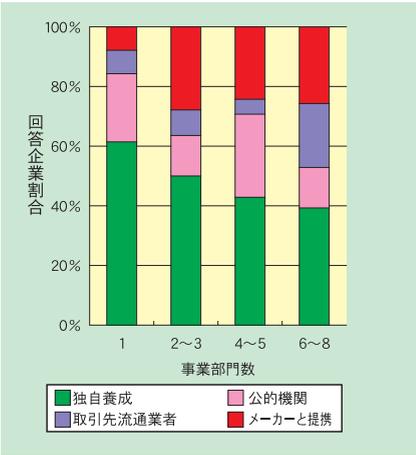


図2 製造ノウハウ確保の主な連携先

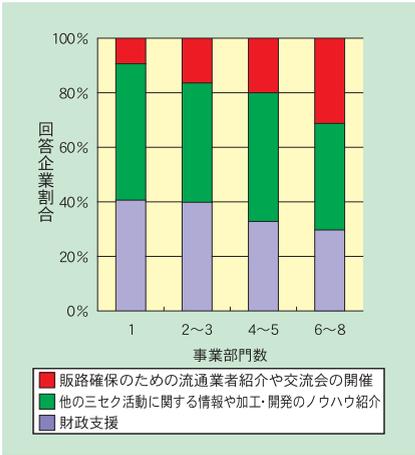


図3 行政に対する主な支援要望

成果の利活用

第三セクターの経営改善、補助、助成金など公的補填に加えソフト事業による支援方策を検討する場合に活用できる。

成果の発表年 平成13年度

（問合せ先：総合研究部 経営管理研究室 019-643-3492）